

令和 7 年

8 月

地域リハOT 便り vol.20

地域リハビリテーション部では、地域に貢献に向け、行政や各種団体からの依頼（講師や委員など）に対応できるよう、各市町に担当部員を配置し、連絡、調整を行っています。

地域リハOT 便りを通じて、地域で活躍する各市町の作業療法士の取り組みを紹介します。

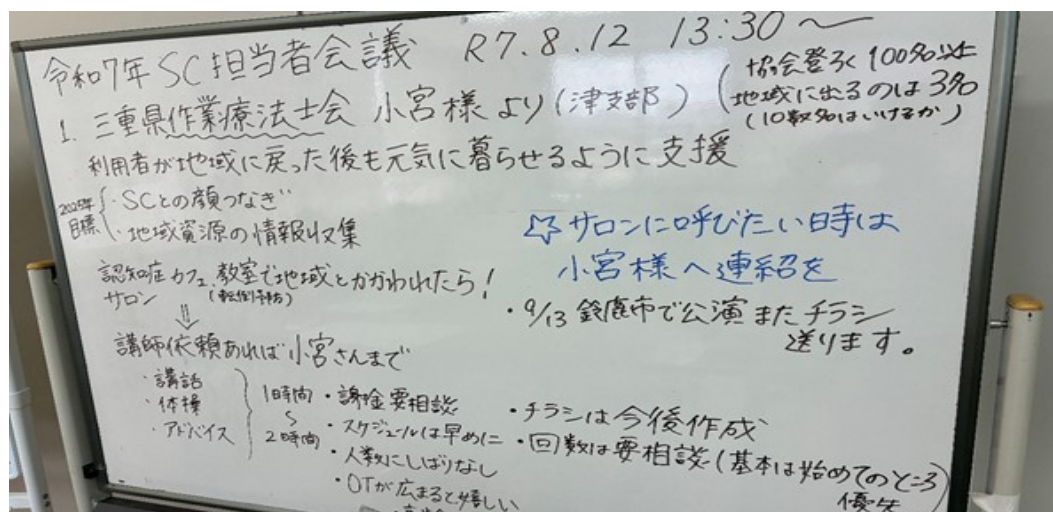
今回は、津市での取り組みについて、紹介します。

生活支援コーディネーター担当者会議に参加して（地域リハ部・津市担当：小宮悠一郎）

私が働いている白山地域での地域ケア会議に出席させていただいたところ、生活支援コーディネーターの方とお話しさせていただく機会があり、津市の生活支援コーディネーター担当者会議に呼んでいただくことができました。今回はその担当者会議の内容についてご報告させていただきます。

『三重県作業療法士会より』という事項を会議に組み込んでいただき、15 分程度地域リハ部の目的や取り組みについてお話しをさせていただきました。

作業療法士の認知度としては、名前は知っているものの具体的な内容はわからない。ということでしたが、



反応としては作業療法士会に対して前向きに興味を示していただき、是非、地域で行われているサロンや教室にも呼びたい。と言っていました。同時に多くの質問やご提案もいただきました。

内容としては、「作業療法士をわかりやすく伝える A4一枚程度のチラシを各支部に置いてみてはどうか。」「どれだけの作業療法士が津市と関わっていただけるのか。」「講師依頼の量は。」など具体的なことも多く、これからの地域リハ部や津市の窓口の課題として対応の検討ができればと思います。

会議の中では、『地域資源の把握や支援・開発を行っていく為には。』など、現在の地域リハ部の取り組みと似ているような議題もあり、各職能団体が別々で動くのではなく情報を共有し合っていければ。というようなご意見もいただきました。

今回の関わりをきっかけに交流機会を継続し、同じ地域で働く多職種や住民の方々にも作業療法士を広く知っていただければと思います。